

「お言葉ですから」

ルカによる福音書 5章 1節～11節

説教 軽込 昇牧師

わたしは2012年春、茨木春日丘教会を辞任しましたが、辞める数年前から、説教でこのようなことを語っておりました。「私たちは弱いからこそ強い。」この言葉を信じてください。茨木春日丘教会はまだまだ本当の教会にはなっていません。それはこの弱い所に神様が働いてくださるからこそ強いという信仰の真理に到達していないからです。それどころか、強いことに憧れているように思われます。これでは、教会も外の社会と何ら変わりません。すべてが感謝。しかし神への恐れが起きていない。

申し上げたかったことは、弱さの中にこそキリストが働いてくださる、という一点に立つべきだということです。もっと信仰が強くなければならない、私たちはどこかでそう思っています。しかしそう思っている限り、真実の教会ではありません。

不漁続きであったペテロたちにキリストがお声を掛けてくださいました。そして半信半疑、網を下ろしたところ、思いがけない大漁でした。その時ペテロに悔い改めが起きました。主よ、私から離れてください。大漁になったのは、ペテロの力ではなく、徹頭徹尾、主イエスの恵みだからです。

感謝は次から次へと起こってくる。しかし悔い改めが起らない。それは事業的な成功です。しかし、そこには人間的な強さだけが支配しており、教会ではありません。悔い改めが起きないからです。本当に砕かれなければ、結局は強い信仰を求めてしまいます。弱いからこそキリストが働いてくださる。しかし私たちは自分たちの中の強い部分、才能のある部分で勝負しすぎています。それは罫です。悔い改めと申し上げましたけれども。別の言葉で言えば神様への賛美です。感謝があっても悔い改めになっていきません。これではどこまで行っても、負けた人生です。

不漁が続いて落ち込んでいたペテロたちと主イエスの出会いです。ペテロと主イエスとはすでに面識がありました。ルカによる福音書4章で主イエスはペテロの姑の熱病を癒しておられます。「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。」(5節)この言葉に表されたペテロ達のやりきれなさ、どこにもぶつけることができない、その思いというのは私たちにも伝わってまいります。苦労しても、成果が上げれば、苦労は報われます。しかし、何度網を下ろしても、一匹の魚も入っていません

んでした。2節に、船から上がって網を洗っていた、彼らの絶望が伝わってきます。

イエス様のお言葉が入っても、彼の心には響いてきませんでした。群衆を解散させて彼らと主イエスだけになった時、主イエスは沖に漕ぎ出して、網を下ろし、漁をなさいとおっしゃいました。「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。」(5節)ペテロの言葉には彼らの断腸の思いが込められています。しかし、次の言葉を彼が言えたのは、神様の恵みです。「しかしお言葉ですから網を下ろしてみましよう。」(5節)

礼拝の招きの言葉として主イエスのお言葉を選びました。「あなたがたにはこの世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」(ヨハネによる福音書16章33節)びっくりするような大漁でした。ペテロは膝がガクガクし、主イエスの前にひざまずきます。「主よ、わたしから離れてください。」(8節)その時、主イエスがおっしゃいました。「わたしに従いなさい。あなたを人間をとる漁師にしよう」。

悔い改めるといふことと人間をとる漁師になるということとは、一つの事柄の表と裏です。悔い改め、それは顔を伏せることではありません。安心して天を見上げること、それこそが、悔い改めです。そして、ペテロにこの悔い改めを起こさせたのは何といたっても主イエスのお言葉です。人間をとる漁師、これは、あなたは出会う人間の上に神様の恵みが注がれていることを見ていく人間になるということです。出会う人の上に神の恵みがあるとみていく、それだからこそ悔い改めが起こります。いや私たち自身の上にも神の恵みが注がれていることを信じるのです。

主イエス・キリストから呼びかけられています。沖へ漕ぎ出し、網を下ろし、漁をしてみなさい。そして私たちもそれに対して答えるべきです、お言葉ですから網を下ろしてみましよう。

あなたは神に受け入れられ、あなたの上に神の恵みが注がれていることを信じますか？それなら、キリストに従った道をまっすぐにご一緒に歩いていきましょう。洗礼を受け、そこから始まる道をどうぞまっすぐにご一緒に歩いていきましょう。

(記 説教要約奉仕者)